

本時のねらい

フラッシュカードを見て、発音したり英単語を書いたりする。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

タブレットでインターネットの翻訳機能をつかう。翻訳の音声を聞き、単語の読み方を知る。タイピングをすることで、アルファベットに慣れる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ タブレット P C ・ Power point ・ google 翻訳

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	【発音】 ・タブレットの色カード（赤青黄緑紫黒白茶橙灰）を見て、発音する。 ・苦手な単語は翻訳アプリに入力し、自分で音声を確認して、練習をする。	パワーポイントで色カードを作成しておく。
展開 (30分)	【文字の入力】 ①タブレットの色文字カード（色と文字を重ねたもの）を見ながら発音し、キーボードで入力する。 ②タブレットの文字カード(色を表す文字)を見ながら、発音し、キーボードで入力する。 入力した文字の発音が合っていたかを確認するため、google 翻訳にアルファベットを打ち込み、自分で調べて確認をする。 間違えていた文字は、音声を聞いて読み方を覚える。	色と文字を重ねたものをパワーポイントでフラッシュカードにしておく。 色を表す文字もパワーポイントでフラッシュカードにしておく。 自分で読めない単語が出てきたときに、タブレットを使えば意味だけでなく、読み方も調べることができることを学ばせる。 (自学自習力の育成につなげる)
まとめ (15分)	今日の学習で、できるようになったことを確認する。 ・色を見て、英語で言う。 ・色と文字を重ねたものを見て、英語で言う。 ・文字を見て、英語で言う。	

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真1：タブレットの立ち上げから google 翻訳まで、自分で進めている場面



写真2：キーボード入力の練習をしている場面



写真3：音声を聞き、発音し、読みを覚えている場面

児童生徒の反応や変容

- ・アルファベットを書くことや読むことに苦手意識があったが、キーボードでアルファベットを打つことは積極的に取り組んでいる。
- ・声を出して発音することも苦手だったが、音声を聞いて真似をして発音するようになった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・タブレットを活用した学習が楽しいと感じることで、苦手だった学習にも積極的に取り組む生徒が増えてきた。フラッシュカードなどは、パワーポイントを活用して作成することで、個々の学習状況に応じて加除修正が簡単にできるので、より一層個に応じた教材づくりができる。